

問1 1911年、女性の地位向上と自由を求めて結成された文芸結社の中心人物は誰？

1. 平塚らいてう 2. 市川房枝 3. 与謝野晶子 4. 山川菊栄

問2 1918年、第一次世界大戦による急激な物価上昇の中で、富山県のどこの層の人々が米の安売りを求めて立ち上がったことがきっかけとなった民衆運動は何？

1. 小作人 2. 地主 3. 主婦 4. 資本家

問3 大正時代に、平塚らいてうらが中心となって結成された、女性の新しいあり方を追求する文学団体を何という？

1. 赤瀾会 2. 共愛会 3. 博文館 4. 青鞥社

問4 日英同盟の解消を決定した国際会議が開催されたのは何年？

1. 1924年 2. 1921年 3. 1923年 4. 1922年

問5 1922年に結成され、小作料の引き下げなどを求めて活動した農民団体の組織を何という？

1. 水平社 2. 日本労働総同盟 3. 友愛会 4. 日本農民組合

問6 ロシア革命の勢力拡大を恐れ、日本やアメリカなどの列強諸国が干渉するためにロシア東部へ軍隊を派遣した出来事を何という？

1. 満州事変 2. シベリア出兵 3. 日清戦争 4. 日露戦争

問7 1918年に全国で発生し、原敬内閣誕生のきっかけとなった出来事を何という？

1. 米騒動 2. 五・一五事件 3. 満州事変 4. 二・二六事件

問8 大正デモクラシーの時代、民衆の意思を政治に反映させようとする運動のよりどころとなった、明治時代に制定された根本法典は何？

1. 日本国憲法 2. 大日本帝国憲法 3. 大日本国憲法 4. 明治憲法

問9 加藤高明内閣のもとで、納税資格が撤廃され普通選挙が実現したのは何年？

1. 1925 2. 1928 3. 1918 4. 1923

問10 雑誌『青鞥』を創刊し、日本での女性解放運動の先駆けとなった人物は誰？

1. 平塚らいてう 2. 市川房枝 3. 山川菊栄 4. 与謝野晶子

問11 吉野作造が唱えた民本主義において、政治は最終的に何を最優先すべきであるとされた？

1. 天皇の権威 2. 地主の利益 3. 資本家の利益 4. 民衆の利益

問12 大正時代に、憲政擁護運動などが高まり、民主的な政治を求める動きが活発になった社会状況を何という？

1. 文明開化 2. 大正デモクラシー 3. 鹿鳴館時代 4. 文化勲章

問13 大正時代から昭和初期にかけて、国民が人間らしく生きる権利を保障するために掲げられた権利を何という？

1. 生存権 2. 教育を受ける権利 3. 勤労の権利 4. 団結権

問14 新聞やラジオ、雑誌のように、情報を多くの人々に伝える手段を何という？

1. 労働組合 2. 国会 3. 国民健康保険 4. マスメディア

問15 平民宰相の原敬が、首相就任時に持っていた公的な身分は？

1. 県会議員 2. 貴族院議員 3. 参議院議員 4. 衆議院議員

答え合わせ・解説

| | | |
|-----|------------------|--|
| 問1 | 答え 1 平塚らいてう | 平塚らいてうは、1911年に女性だけの文芸雑誌『青鞥』を創刊し、青鞥社を結成しました。彼女は、理知と感性の両面から女性の目覚めを説き、旧来の家族制度に疑問を投げかけました。 |
| 問2 | 答え 3 主婦 | 1918年、富山県の漁村に住む主婦たちが、米の積み出しを阻止しようとした行動が報道されると、同様の困窮に苦しむ人々が共感し、米騒動として全国に広がりました。この運動は暴動の形をとり、警察が出動する事態にもなりました。これは民衆が政治に対する不満を直接行動で示した例です。 |
| 問3 | 答え 4 青鞥社 | 平塚らいてうは、女性たちの自由な創作の場として『青鞥』という雑誌を創刊しました。創刊号の巻頭言にある「元始、女性は実に太陽であった」という言葉は、女性の本来的な尊厳と力を宣言するものでした。この活動を通じて、多くの女性たちが自分自身の生き方や社会のあり方に疑問を持ち始めました。 |
| 問4 | 答え 2 1921年 | アメリカの呼びかけにより1921年にワシントン会議が開催されました。この会議で、日本を軍事的に抑制し、中国の主権を尊重させる国際秩序を目指すため、日英同盟の解消が合意されました。 |
| 問5 | 答え 4 日本農民組合 | 賀川豊彦らが中心となって結成した日本農民組合は、日本初の全国的な農民運動組織です。地主に対して団結して交渉を行うことで、農民の権利を守ろうとしました。各地で小作争議が頻発するきっかけとなりました。 |
| 問6 | 答え 2 シベリア出兵 | 1918年、日本やアメリカ、イギリスなどは、革命政府に対抗する勢力を支援し、革命の封じ込めを図るためにシベリアへ軍隊を送りました。日本は当初の予想を超えて長期間駐留し、多くの兵力と資金を投入しました。 |
| 問7 | 答え 1 米騒動 | 富山県から始まった米の買い占めに反対する運動は、瞬く間に全国へ広がりました。米屋や政府の対応に対する国民の不満が爆発し、商店が襲撃される事件へと発展しました。この出来事の結果、当時の寺内正毅内閣は退陣を余儀なくされました。 |
| 問8 | 答え 2 大日本帝国憲法 | 天皇を国家元首とし、統治権を天皇に帰属させる仕組みを定めていました。しかし、大正時代に入ると、この憲法が定める議会制度などを活用し、民衆の声を政治に届ける「大正デモクラシー」の動きが活発化しました。吉野作造らの論者は、憲法の枠組みの中でも解釈次第で議会政治を発展させられると考えました。 |
| 問9 | 答え 1 1925 | 1925年、加藤高明内閣のもとで普通選挙法が制定されました。これにより、それまでの納税額による制限が取り払われ、満25歳以上のすべての男子に選挙権が与えられました。 |
| 問10 | 答え 1 平塚らいてう | 平塚らいてうは、1911年に女性だけの手による文芸雑誌『青鞥』を創刊しました。創刊号の宣言文にある「元始、女性は太陽であった」という言葉は有名で、女性の目覚めと自立を力強く訴えました。当時の厳しい社会的制約の中で、女性が自身の力で生きる権利を主張し、日本における近代的な女性運動の先駆けとなりました。 |
| 問11 | 答え 4 民衆の利益 | 吉野作造は、天皇主権という日本の枠組みの中で、いかに民主的な政治を実現するかを模索しました。その結果、主権の所在を問うよりも、政治を行う目的が「民衆の利益」にかなっているかどうか、そして民衆が政治に影響を与えられるかという点を重視すべきだと説きました。 |
| 問12 | 答え 2 大正デモクラシー | 大正デモクラシーは、吉野作造の民本主義などの思想が広まり、普通選挙の実施や政党内閣の実現を求める動きが盛んになった時代状況を指します。言論の自由や社会運動が活発化し、人々の政治への関心が高まりました。 |
| 問13 | 答え 1 生存権 | 生存権とは、国民が「健康で文化的な最低限度の生活」を送る権利のことです。大正時代から人々の権利意識が高まり、後に日本国憲法にも盛り込まれました。この権利は、生活を維持するための公的な支援や、労働条件の改善を求める根拠となりました。 |
| 問14 | 答え 4 マスメディア | マスメディアの発展は「情報の大衆化」を促しました。特に1925年に始まったラジオ放送は、家庭にいながら最新のニュースや娯楽を楽しめる画期的なものでした。新聞や雑誌も発行部数を伸ばし、全国的に同じ情報が共有されるようになりました。 |
| 問15 | 答え 4 衆議院議員 | 原敬は、爵位を持たない一般国民出身の衆議院議員でありながら首相の座に就きました。そのため「平民宰相」と呼ばれ、国民から親近感をもって迎えられました。政党政治の象徴として、国民の声が直接政治に反映されることへの期待が込められていました。 |